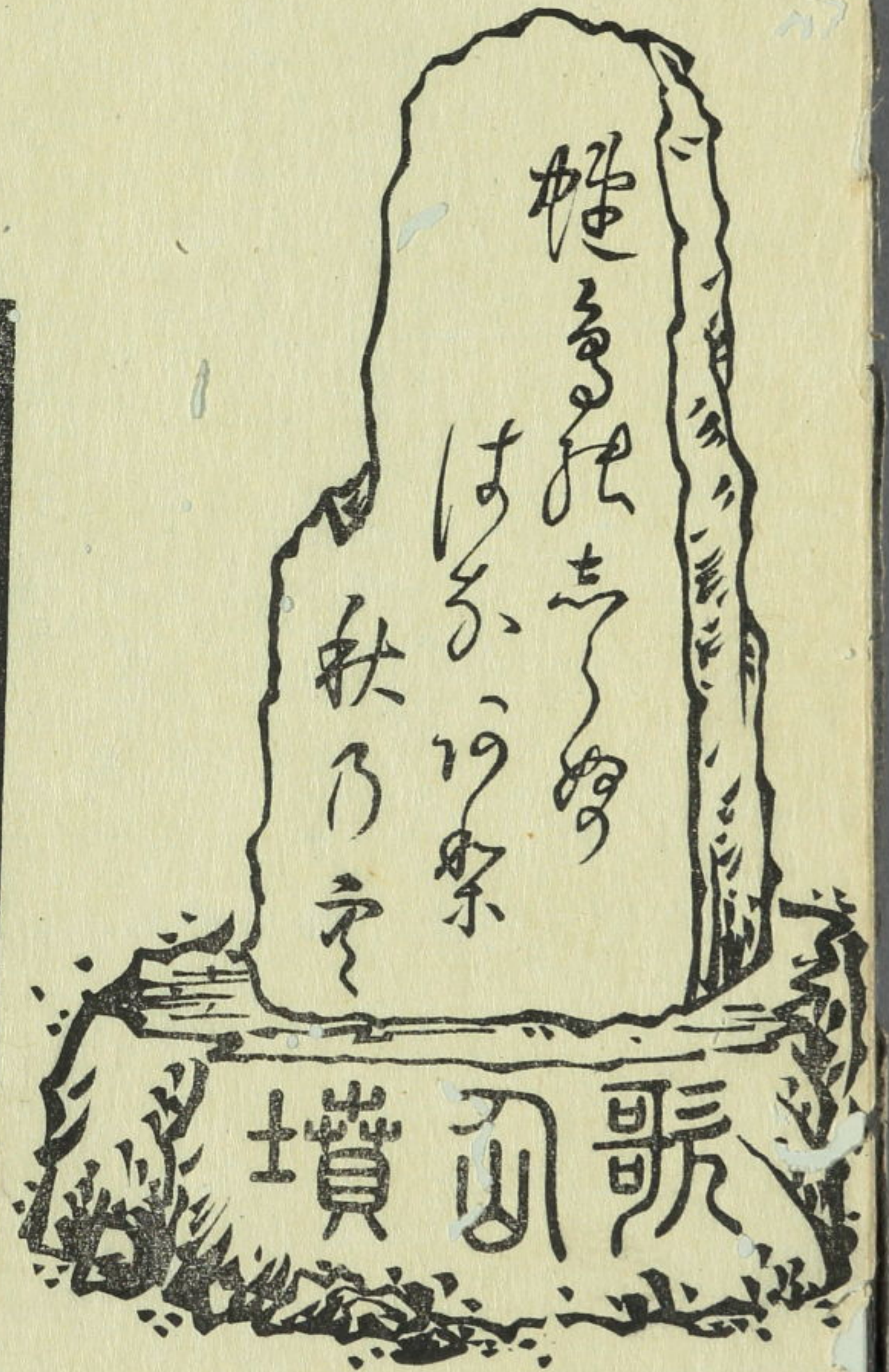


湖東山止れ 遠き程 此の程の
志あるを正の 徳をさすまふ
この程より 有るの ちりり
瑞ふの ちりり 徳をさすま
祖の ちりり 徳をさすま
ちりり ちりり 徳の ちりり

哥仙墳
踏橋編

碑陰



歌仙墳者瘞蕉翁諸子篇什之處立石表焉吾瑞石飯盛之地皆以楓樹名嘗欲其所詠勃諸貞石而翁無之故此偶然秋興之作聊以代之然不獲已耳遂為之銘云世外高致名檀菰林正風之傳孰不仰欽
 蒲溪和月誌

月花のあやもやまの 魂 交 如 風
 作けりまきま今初乃まき 其 音
 めきれ凡ね吹音に聞きまき 洞 夢
 繪書り門と折りまきれまき 音 表
 まきれのみや樹へゆきまき 月 耕
 まき川如くゆきまきまき 浮 遊

華ふれを指りさし入所乃舟
 つねとたのしみ越るハ鬼山
 るとほつ音せいのうらたけ
 小魚と入きくみせる硝子
 亂れ舞いまあとおる面白さ
 つくしむりまわれぬ中
 美舟れ月夜小節こらて
 宮座乃よとほききれ飛
 ゆるけいこ豆鼓いふれけり上落
 麦司
 梅窓
 小雅
 梅竹
 月下
 夏園
 何楽
 蒹塘
 月霰

細かつくまきく梅くく吹くく
 入お乃花も津のきくく
 くのまきくあわくく
 巫山
 夢橋
 久来

舟くくまききのあを梅乃舟
 かの花やゆふきつひりれ舟
 杉風のき風ふくく就
 旭きれまれよや秋乃境
 白麻着山
 如瓦
 洞美
 月下
 小雅
 大夏寺

名月や海ふかき 琵琶の音 麦司

梅の月乃り物と居る山汐ふ 梅舟

為やのあはれの癖とふれり 梅窓

と乃きれ空に立たり紙月

懐中老酒乃くらふ為星

まけりま付て初り一葉乃花 上中世 浮遊

志とすや珠と石としたり 池上 月耕

うき人の涙下に立居やふまを 池上 青雲

あふりいしきまに月夜ふ 中世 見東

冬は月波もうさぬ山汐ふ 今世 蒹塘

暮らうと雲やうらけ 初梅 月霞

そよみのよ風う吹てもとりれり 甲津細 巫山

一八う物れんちとせりぬ あま 何楽

八九下付く押あはれ対の月 三ノ川 月川

濁り世と群して浮ぶれ 藤ふ 改不 紫雲

おれ花やまらり下の星有月 改不 新川

梅う乃びるまの月の影 玉山

方便の振影をやねん 柳條

あり風や古御せし藤安
 向くまのく人知しきれ
 多
 仙安
 秋風やあつみ人のあまほ
 水
 あり海も早を憶ふ秋乃有
 可耕
 秋もや秋も小きもれあ
 白カセ
 可文
 川もふしつむ衣や麻の衣
 ヨミナト
 あり水
 夏菊や洲のあつむやま
 上中地
 あり丸
 川秋と流る海もあつむあり

新鳥のあつむあつむ
 モリ村
 月夕
 あり海も早を憶ふ秋乃有
 門笑
 中筆れ秋月とけ道のあつむ
 小松
 英角
 あり海も早を憶ふ秋乃有
 平松
 鬼丸
 あり海も早を憶ふ秋乃有
 中里
 響月
 あり海も早を憶ふ秋乃有
 百海
 夏士
 あり海も早を憶ふ秋乃有
 大杉
 子武

中流人にならぬをて

徒ふ色香久しや菊の友

トミヲ 百杵

一帯ふれぬおのほろきけ

松尾 魚水

海よりうらふ光るの道世に

小糸 湖松

案内者の心算ししとくく

多賀 山乐

を近乃山心とくくを果

琴音

中流人にならぬをて

ゆい女

石火光中寄此身

二百十日夕露清くこぼれり

多賀山下 塘里

人魂のりよのこを松乃周

う実 柳盤

方廣寺に池とありて

行果り久敷くありて

古原 此得

おまふぬ下枝ききしきれ

う田 去何

明やまた花もあやんや櫻桐の風

長根 飛川

一とよきふきつたの音の歌

白民

麦化り人も影舟乃ありて

素律

寐しきれ骨斗より枯尾花

素詠

宮線ハさしほり綾り針仕世ハ

川原 雲統

あらしの白く 花の白く 花の白く 花の白く
蘭端の白く 花の白く 花の白く 花の白く
花の白く 花の白く 花の白く 花の白く

川

白菊

芋丈

花玉

花の白く 花の白く 花の白く 花の白く
花の白く 花の白く 花の白く 花の白く
花の白く 花の白く 花の白く 花の白く
花の白く 花の白く 花の白く 花の白く

メカク

素幽

千枝

不識

メカク

伯甫

花の白く 花の白く 花の白く 花の白く
花の白く 花の白く 花の白く 花の白く
花の白く 花の白く 花の白く 花の白く
花の白く 花の白く 花の白く 花の白く

嘯月

芦湾

瓢仙

松田

麦珍

其川

珍起

花月

其拍

のらりりりは 露も ぶり六 川セ 露玉

さしと吹とくしとる青竹 六七 半化坊

結制とくく 廣き本堂 三川 里川

干飯え桃や 携乃ちさならけ 沢 芦水

女乃日くひ 常くく 似下 沢 志厚

秋立て 蕙乃さつる 蚊吐 メカク 浮玉

雷陣や ため息とつ 時れ鐘 去幽

鷓鴣く 釜く 乃く 心ほる 心 伯甫

きらくた乃 白おとく 浮は 寛ふ 心 尹澄

肌脱て 髪ゆる 窓や 梳れ花 紗起

竹の根れ 清く 志ゆる 秋も 破ア 必中

命とめく 心きうつ 心本音の 切あも

刈さて 携るふ や 巾代の 心 越川 芦水

雛子 鳴く 心ちり 心あ の 心 心 不日

山 篝や 園とく 心 村あ 心 心女

乾鐘や 心園ひ 心 筋 勤 善 薩 温叶

心 陸あ 心く 心 心あ 心 心 心 田令

向ふふ昔とあはるる角力うら
 香のぬきもはききとせし事
 名海やちかたうつれい波いゆ
 冬けりや初たうすふまあ
 羽子けいも別なむらも買れり
 沖流山打ぬきとやいふの花
 さいしとや吹戻しとら川入喜
 果のたれ海ととられて能月
 夏ふ今吹介り花乃云伝塚
 志勇

里指

哥力庵

柳枝

陣池

虎眼

梅月

栄松

春花

志勇

瑞福うも門ちかたうら
 道いきとちかたあせ落まうら
 夕虹や吹かたる山の時あたり
 去りや蝶と花よの命いられ
 初嫁やま魚へあに新もは
 逢ふよもあふ枝あはるれ真
 山あうと来ととらる花盛
 きみくや忍れけき松あ
 地ふ落るもれととらね能川

大喜

如昔

箕流

月挂

文車

芦錐

寸糸女

岱李

展乃夕虹吹く月地ほり

箕計

秋もみよりのらつき水鶴子

班中

机きくや大津ふくもる本質宿

雷子

らるるを惜しむ時入り来ふ

川思

きぬふれ人静るり物くれ

林芝

厂りの遊をそまると市れ中

雨遊

物のもれこふやのまわり冬あり

摺船

物もれおちの嵐こころをけり

良仙

山魁りきうもこえしてまふこ

白鳳

瓜生津

松より空をれうまふ山路下

五在葦

稲妻や微塵ふれく枝の園

桐衣庵

萩下呼あふもさるる后ね月

魚水

ほらしくと極り露のまきうか

酒業

お下やちきれくのそれ飛

花月

らる花れ中にまらるる古き山

早水

閑古きゆりひのききれ山まじ

自笑

あはれねふあふらねり管う那

米水

夏の月照波のまらねあふや

花石

上出

草木花根の束縛つゝふ時をわらふ笑

さくらぬあれよなる様う柳屏分一

わらうあつきくそきのうのうらな今在花三花

常は流しにありて花の梅三松分分

心く 塚く。心向もゆこのむ好文

り来乃花ふひつなも新中ノ花水

秋と流居ある里れ是うあ蓮原

花並々うま妍き白わう八百布つま女

浮山のうま色買ん神くれ月磨

杉と花れはるる氣や叫水鶴言前梅之

魚白さきく鶴乃瘦ふなり五位田凡新

八重の中れ中と絶なり那よの亭今村月洪

改ま火の中ふ密柑の香美小分芦鴻

琴れ言乃眠捌くや嶽 月我襟

清く花の回と通さけけりあ花古古

花より人の形ふまうわらふ麻琴ふ古古

石の門く氣力もせめてまれば花眠霞

やうさくなれ空やし机う壺壺月

白川乃意をる色し 言き 微笑

すつらした山や花 言き 負米

降もね 言き 止月

うら 言き 洗耳

く 言き 折月

揺白り 言き 瑞羊

冬 言き 里元

花 言き 諷琴

ふ 言き 凉扇

英 言き 蕨秀

朝 言き 花鳥

水 言き 鬼炎

舟 言き 郊之所

旭 言き 古道

花 言き 士常

浪 言き 森水

ま 言き 花梅

ほ 言き 鳥跡

ゆき〜一人さひのれ世京

横江

この〜に野れまゐの夕りふ

旭梅

ねりまのれ、存れて涼〜夏の月

田河

後桐ねまの雪くらせり入りふ

荒角

きよとやふらきよとよるあれね

能水

吹込て〜なる風や雄辨〜

常盤

風きふか〜

凡それ下禁も猶くあれまふ

西庄 芦取

凡のよも人れよの付〜ようふ

八樓 猿門

莖もあはよ〜とそりかを

班車

いっ〜っきくに押〜小家りふ

夜外

〜〜〜ね〜ふかりぬ白枝

可盈

ねのまの踏もき〜し舟ねま

京 二柳

辰橋や是に酒賣人あ〜い

初雄

君らよれき真うなる螢小

大五 ます女

あ〜〜もわぬねりあ〜てよの月

旬之

〜〜〜とゆ雷や〜ね〜入る

千雁

松中一そこの色は秋の月 雪山

稲妻やほのくさきかみ山 綿花女

月今宵あるとそよみてあそび 細山

甲子や芒も花を結よみれ 小岱

罪坊みあやうけの葛蒲團 米甑

昔ねや水知ふまろ伊勢の夏 蛙聞

月こゝみえとしくんくろのま 鳥山 隣子

岡崎や移れけり丁くれ 亀並

夕ら流の秋はさうと時れは 水鏡

あにま色並ふ落てくろね月 三州山田 雲法

こゝしとこしらは入ぬあきのみ 古田 蛙柳

ねくれあふわさとまくれふ 松子 一峯

かの花ふほそくたへる二の山 カ、山中 不折

琴のあふまればさう五月る 金沢 木雪

母れまの糸もいろよゆくれ イセズレ 尹頭

あまふんや一ふ麻のちつひの 花蝶

まふ梅あふまふやまふ乃花 梅弁

望一うふけしたのさ月ぬ 新中 飯多

火と呼吸を研して花れ奥 丹州成和 延古

風をなまされ淋くもも乃心 持山 うぶ女

よみ舟れ奥に新比の伽藍入 持山 吳風

九老に擬す

味噌こしと花れんをこころ 丹州和知九十翁 小雪坊

積やうに二ついふ心うねり 山州宇治八十五翁 貫二

みれこころいふけうを積まじ 町屋八十三翁 為室

又々々開くはかり下あまをかり

まろくに深ふたこころのなれ 白康有八十翁 洞夢

新うけの定ひあきん人々 本木幸九翁 芦秋

柳もも風とそあうねり 今代七十七翁 志候

ねり香くろしとまきまに 八代七十四翁 綿山

子梅やほろしとられる炭か 甲津細幸二十翁 柳鞠

まろしと花れ梢やねり 目代七十一翁 松蘿

画うんとすわく舞や花にさ

如畑

冠瓜

侍徒ておれ付るる年ふと

花月

秋風やりまきりし

芦水

墓八十色一人り歌

吉羽

一水

多弁れ多にかりるる家

奉譲

之入り流も流し言清水

仁厚

冷糸

梅らるや何まてや吹留れ青

仁厚

紫蘭

新入の舟やあつり新糸

里赤

新糸はねり美多やあつり

冬枯しあ田え歌しるやう

日野

紫英

川年やあまもあまもあつり

淇竹

鴨いさしあもあつり角田川

松蘿

無汁はあ十日あつり山松

一井

角りねりあつり月夜うさ

除穢海や世にるらあ

二揚

猿くさる念佛あつり山

湖六

流中あつりあつりあつり

随波

横向あつりあつりあつり

素糸

秋風やきりてくの子の居る
 夕のまよき梢へくくぬ
 武蔵の月夜にけしき
 元山やいつくすの言
 味ひつゝおのれおのれ
 多様ななりてつたよの山あり
 維新の眠き中とあふかり
 雨丁もあふりぬと丹れ鐘

志益
 文来
 又也
 桃之
 連水
 古燕
 琶水
 久岡

秋風やきりてくの子の居る
 夕のまよき梢へくくぬ
 武蔵の月夜にけしき
 元山やいつくすの言
 味ひつゝおのれおのれ
 多様ななりてつたよの山あり
 維新の眠き中とあふかり
 雨丁もあふりぬと丹れ鐘

鬼園
 ぬ石
 一葉
 鬼角
 山人
 眠江
 ぬ園
 ぬ山

百韻

梅は花世とともあはれ物なり	明石
浦のわたりとふりともあはれ	竹窓
人あふうつれ雛のまをて	一可
的よりなつて休れ小き	実疑
夏よりともあはれとあはれん	斗南
鹿よりちとほくとあはれ	松宇
秋風乃月吹くうれ物なり	青田
わたりれ庭より物とあはれ	瓜洲

三尺の簾とあはれ物なり	希堂
あつらひ小きれ荒れ上	安祿
付れあつらひもあはれ物なり	冬松
人より情とあはれ物なり	里桂
ほろもきれ物なりとあはれ	甫一
須广れ層とあはれ物なり	一得
借正の森とあはれ物なり	友月
楸乃枝とあはれ物なり	紫石
新より物なりとあはれ物なり	何乐

又して隠しとて流るる玉柳
 世れ中へ捨て置ても面白く
 壁をたいてみるをほめる
 花の香ねるるを袂に
 厂の切もや志高しなまや
 賤様は深きに美ほくらん
 油三升くらねるきこたり
 まじり鳴り合ふ山に望み
 多も流とそえりしき

桂聲
 琶水
 如園
 如山
 湖六
 日三
 二指
 松蘿
 星川

山石
 眠江
 里赤
 可考
 素舟
 古燕
 机席
 士明
 和月

ひまわりと風と

松尾 友月

えびで産むの産乃月

大分 冬松

くわの枝とつらつら

大分 里桂

新きけ首あま

栲舎

花乃うらら

山石

丁のひかり

文石

月夜と月夜

月園

浦のつらつら

花水

ふし入春

上野田 笑顔

待きや芒と

中 又聴

梅妻や

小谷 既白

雪れ梅

里石

萩乃西果

乃美

梅子とつらつら

升世

いづこ

一毛 白洲

七人の

子 不得

夕白や

大分 珍岳

川風や故より先の梅の花
 音人
 去らば人のこころを携う如
 油火よりよのあつておのれ
 田井
 重塊
 七夕やまに月おひねりぬ
 素行
 細りれも業おらして字多の秋
 馬蔘
 揺るや花ふりゆく井蓋の子
 蘇公
 解能やまゝの首代の清くあり
 中山
 和笛
 けきんくさうふくされを
 ねくや枯らけやとお塔し

けきんくさうふくされを
 ねくや枯らけやとお塔し
 解能やまゝの首代の清くあり
 中山
 和笛
 揺るや花ふりゆく井蓋の子
 蘇公
 細りれも業おらして字多の秋
 馬蔘
 素行
 七夕やまに月おひねりぬ
 田井
 重塊
 油火よりよのあつておのれ
 音人
 川風や故より先の梅の花
 けきんくさうふくされを
 ねくや枯らけやとお塔し
 解能やまゝの首代の清くあり
 中山
 和笛
 揺るや花ふりゆく井蓋の子
 蘇公
 細りれも業おらして字多の秋
 馬蔘
 素行
 七夕やまに月おひねりぬ
 田井
 重塊
 油火よりよのあつておのれ
 音人
 川風や故より先の梅の花
 けきんくさうふくされを
 ねくや枯らけやとお塔し
 解能やまゝの首代の清くあり
 中山
 和笛
 揺るや花ふりゆく井蓋の子
 蘇公
 細りれも業おらして字多の秋
 馬蔘
 素行
 七夕やまに月おひねりぬ
 田井
 重塊
 油火よりよのあつておのれ
 音人
 川風や故より先の梅の花

西及田 寄柳
 キツ ト之
 ち尻 阿吽
 カケケ 蓮池
 三月 玉汝
 羽觴
 六 柳
 梅玉
 月波

始末

1子ハ

始末

水口

水口

原州

常足

洪園

常足

常足

之良

之良

梨風

梨風

この女

この女

龜嶺

龜嶺

伴

伴

蓮車

平松

平松

志乃女

三ヤ町

三ヤ町

ト玄

キノセ

キノセ

うす女

クラシ

クラシ

二雀

フ川

フ川

周安

有峰

有峰

カミ村

カミ村

蘭太

用名

おのりしるしるしるしるしるしるしる

岩室 丘下

あまのついでにうらみあかり

土山 虚白

あまのついでにうらみあかり

あまのついでにうらみあかり

寿山

あまのついでにうらみあかり

凡鳥

あまのついでにうらみあかり

蘇菖

あまのついでにうらみあかり

あまのついでにうらみあかり

抄者

あまのついでにうらみあかり

米穂の屋うちあけても用子

井ノ子 響水

夕ぐれにうらみあかり

大ッ 子影

花ふらふらうらみあかり

申齋

あまのついでにうらみあかり

イニ 雀鳴

白鷺のあまのついでにうらみあかり

夙也

あまのついでにうらみあかり

ヨリ 弁有

あまのついでにうらみあかり

三洲 杖擧

あやかしらひの影うつる 山上社中 一花

まはるるのさかしのさ 楚九

あやかしらひのさかしのさ 三千舟

あやかしらひのさかしのさ 鬼突

あやかしらひのさかしのさ なき女

あやかしらひのさかしのさ 房蝶

あやかしらひのさかしのさ 牛凡

あやかしらひのさかしのさ 枝英

あやかしらひのさかしのさ 方水

あやかしらひのさかしのさ 素藤

あやかしらひのさかしのさ 吐燕

あやかしらひのさかしのさ 菊民

あやかしらひのさかしのさ 柏雨

あやかしらひのさかしのさ 麦食

あやかしらひのさかしのさ 幻爰

あやかしらひのさかしのさ 紫園

あやかしらひのさかしのさ 枝山

あやかしらひのさかしのさ 崎臚

翠の葉も月を明て揺る如

蘿夕

うさめいん 仔細れをとほる丁

青紫

清木うらけうらけの海に松あり

山曉

書社や旭のまゝふやうに假名

藍丈

縦尺の穴はうらうらとるるまうら

酒窟

六月乃たすいひ入るや標の空

蘇石

呼吸や家鴨ふつとくくく

圓水

まはれまはれ計よせやうはうら

其夕

ふゆやぬ丁あふうけはる

尾三

まはれやふらうらまはれ

ふゆ

折あるはるうらやまの海

溪夕

まはれ音のうらうらまはれ

其音

まはれうらうらまはれ

其音

まのまやうらうらまはれ

其音

人年やうらうらまはれ

其音

天明くられの南で庵の口に入
付し師服して侍させゆきと四方の
ぬしに句とむひつ一卷とれたるに
さげふ捨やをわすれしに

系 遠くは海定らん冬は庵
うりおしかなら 坂り物お
えおとる 向と踏れかこも
笑いとささく ねおとるを
尋りやまは奥の月れ茶
衣うらやま 甬ひくあり
二曲

湾橋

園更

洛 都雀

車盖

十六 二柳

十一 二曲

乃帯れ園はりさる 芥入に
死張るれ 長り子供鳥
長くに向比るあり波乃と
夕附うけふ一 松此松
双六の石乃くつもも夏の間
サヨヒもさめ 杜筋うふ
遍美の別道くさき船乃月
盗人 渡を掛し 園 峽
秋廣乃刀いく 女ひゆうふ

大ツ 机童

ナラ 宗壽

イセ 池反

ナニヤ 蝶全

水城 屋州

ハヤミ 去行

イセ 西山

ハヤ 貞梶

ヒ 紫英

信行れまうに〜は百段
イセ 斗曇
 ま〜〜魚乃ぬり花れ奥
平尾 瓢
白老 洞夏
イセ 隣〜隣〜〜〜播の妻
山口 小瓜坊
八市 雁橋
 好織の襟乃破〜飛人
山口 曲阿坊
 夕島〜五條〜〜〜錦とよ
播州 青蘿
 訛りのゆ〜〜行部川の山
志州 東渡
 あ〜か〜い和島乃妹首尾也
志州 東渡
 比美集にうき名立らむ
志州 太夏

在ふ〜いけと右〜〜あ〜らぬ
但 本婆
 腰に〜〜〜あ〜れ吸肩
カ 松磨
 や〜き〜〜あ〜れさ乃平治
大和 行来
 才りれ乃乃不二と〜〜〜
 ち〜〜と荷のき〜〜にひ〜
 たの〜〜にサリ〜娘〜一人
イセ 槿馬
成川 芦水
 買〜とた〜〜〜あ〜押〜
志 梅凡
 魚〜〜〜入相持〜〜ん
志 志得

